

【プレゼンテーション資料】

2008年度 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2009年5月14日

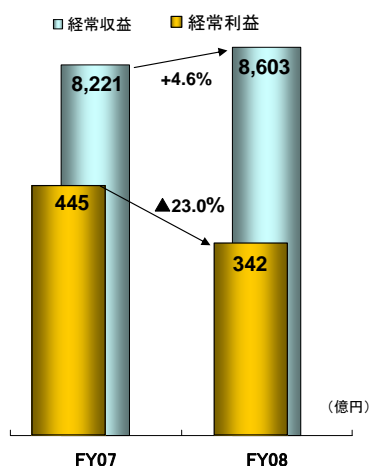
表紙

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

免責事項

連結業績ハイライト



(億円)		FY07	FY08	前年度比	
生命保険事業	経常収益	7,413	7,662	+249	+3.4%
	経常利益	390	325	▲65	▲16.7%
損害保険事業	経常収益	556	618	+62	+11.2%
	経常利益	28	21	▲6	▲22.7%
銀行事業	経常収益	259	333	+73	+28.5%
	経常利益	24	▲5	▲29	—
全社又は消去	経常収益	▲8	▲11	▲3	—
	経常利益	2	1	▲0	▲48.0%
SFHG連結	経常収益	8,221	8,603	+381	+4.6%
	経常利益	445	342	▲102	▲23.0%
	純利益	242	307	+64	+26.7%

(億円)		08年3月末	09年3月末	前年度末比	
SFHG連結	総資産	49,774	53,136	+3,362	+6.8%
	純資産	2,616	2,048	▲567	▲21.7%

金額は単位未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

2

ソニーフィナンシャルホールディングスグループの連結経常収益は、生命保険、損害保険、銀行の全ての事業で増収となり、前年度比**4.6%**増加の**8,603**億円となりました。

連結経常利益は、すべての事業で減益となり、**102**億円減少の**342**億円となりました。

連結当期純利益は、価格変動準備金戻入額**204**億円の計上により、**64**億円増加の**307**億円となりました。

今回の決算のポイントにつきましては、次のように認識しております。

生命保険事業については、主力の死亡保障の販売は概ね好調でしたが、一部の商品で解約が増加しました。資産運用については、エクイティ性資産の圧縮に努めるとともに、ALMの観点から超長期債の購入を積極的に推し進めました。純資産額やソルベンシー・マージン比率の水準については十分なレベルにあると認識しております。

損害保険事業については、新規契約の獲得が好調に推移し、正味収入保険料は前年度比、**2**桁成長となりました。

銀行事業については、業容は順調に拡大したものの、当年度下期以降の金融市場の混乱を背景に有価証券の減損処理を行ったことなどにより、経常利益は前年度比減少となりました。

連結業績ハイライト

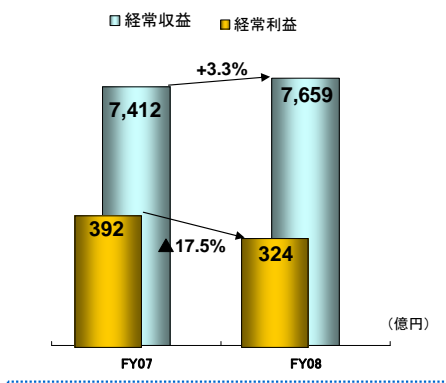


- 生命保険事業では、新契約高・保有契約高（個人保険＋個人年金保険）、保険料等収入ともに堅調に推移。資産運用状況の悪化などにより経常利益は減少。
- 損害保険事業では、自動車保険の新規契約獲得が好調だったことから経常収益は増加。一方、支払保険金の増加等により経常利益は減少。自動車保険の保有契約件数は2008年12月末に100万件を突破。
- 銀行事業では、業容の拡大にともなう運用資産残高の増加等により、経常収益が増加。一方、有価証券の減損処理を行ったこと等により、経常利益は減少。
- 連結ベースの経常収益は、前年度比4.6%増の8,603億円。経常利益は、有価証券評価損（減損処理額）を474億円計上し、前年度比102億円減少（▲23.0%）の342億円。当期純利益は、価格変動準備金の取り崩しを実施したため、前年度比64億円増加（+26.7%）の307億円。
- 連結純資産は前年度末比567億円減少の2,048億円、連結総資産は前年度末比3,362億円増加の5兆3,136億円。連結純資産の減少は、株式相場下落等の影響によるその他有価証券評価差額金の減少（前年度末比797億円減少⇒当年度末：▲48億円）が利益剰余金の増加額を上回ったことによる。

3

各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめておりますのでご覧ください。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- 【ソニー生命】**
- ◆前年度比 増収減益(経常利益ベース)
 - ◆新契約高は前年度比1.9%増加
 - ◆保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加
 - ◆基礎利益は380億円
 - ◆解約・失効率は前年度比0.67pt上昇の6.79%
 - ◆ソルベンシー・マージン比率は前年度末比312.6pt上昇し、2,060.5%

新契約高、保有契約高、解約・失効率は、個人保険と個人年金保険の合計。
 解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出。
 金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

(億円)	FY07	FY08	前年度比	
経常収益	7,412	7,659	+246	+3.3%
保険料等収入	6,484	6,620	+136	+2.1%
資産運用収益	874	987	+112	+12.9%
うち利息及び配当金収入	479	558	+78	+16.5%
うち金銭の信託運用益	147	-	▲147	▲100.0%
うち有価証券売却益	240	321	+80	+33.7%
経常費用	7,019	7,335	+315	+4.5%
保険金等支払金	2,411	2,747	+336	+14.0%
責任準備金等繰入額	2,862	2,190	▲671	▲23.5%
資産運用費用	698	1,337	+638	+91.4%
うち有価証券売却損	15	161	+145	+933.5%
うち有価証券評価損	66	318	+252	+376.3%
うち特別勘定資産運用損	483	722	+238	+49.5%
事業費	943	939	▲4	▲0.5%
経常利益	392	324	▲68	▲17.5%
当期純利益	185	337	+152	+82.5%

(億円)	08.3末	09.3末	前年度末比	
有価証券残高	23,889	28,196	+4,307	+18.0%
責任準備金残高	33,750	35,923	+2,172	+6.4%
純資産額	1,826	1,407	▲419	▲23.0%
その他有価証券評価差額金	827	40	▲787	▲95.1%
総資産額	36,597	38,106	+1,511	+4.1%
特別勘定資産	3,217	2,751	▲466	▲14.5%

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したことから、前年度比3.3%増加し、7,659億円となりました。

経常利益は、日本の株式相場的大幅な下落に伴う、資産運用状況の悪化により、前年度比17.5%減少の、324億円となりました。なお、金融市況の悪化にともなう運用利回り低下に対応するため、危険準備金の一部を取り崩しております。

純利益は、株式等の売買や評価替えなどによる損失に対応するため、価格変動準備金の一部を取り崩したことにより、前年度比82.5%増加の、337億円となりました。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY07	FY08	前年度比
新契約高*1	38,025	38,737	+1.9%
新契約年換算保険料*1	634	616	▲2.8%
うち第三分野	133	134	+0.6%
保険料等収入	6,484	6,620	+2.1%
資産運用損益	175	▲349	-
基礎利益	235	380	+61.2%
逆ざや額	267	213	▲20.2%
平均予定利率	2.68%	2.59%	▲0.09pt
解約・失効率*1,*2	6.12%	6.79%	+0.67pt

(単位:億円)	08.3末	09.3末	前年度末比
保有契約高*1	314,973	325,176	+3.2%
保有契約年換算保険料*1	5,300	5,478	+3.4%
うち第三分野	1,228	1,266	+3.1%
ソルベンシー・マージン比率	1,747.9%	2,060.5%	+312.6pt
実質純資産額	6,120	5,326	▲13.0%

*1)新契約高、新契約年換算保険料、解約・失効率、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。金額は億円未満切捨て
 *2)解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出。増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

5

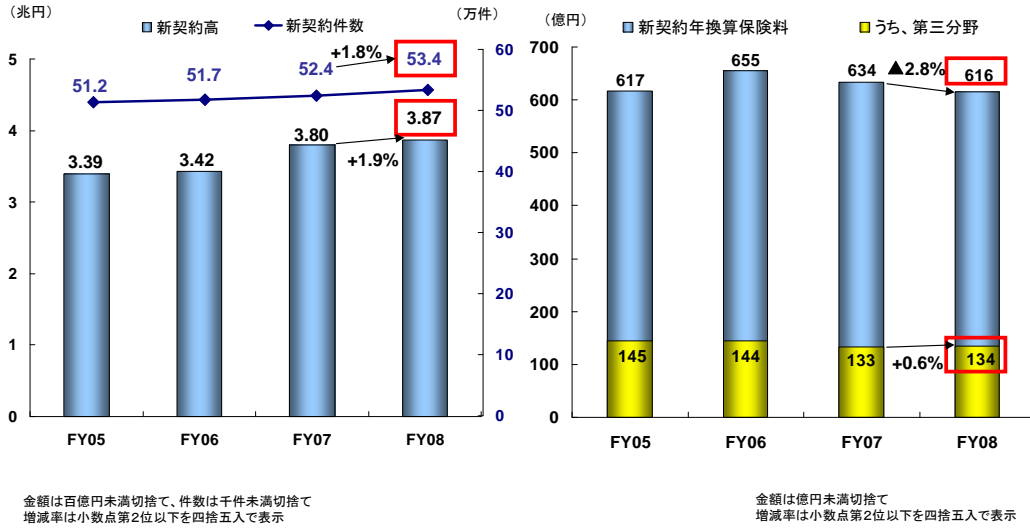
ソニー生命の主要業績指標につきましては、このスライドに記載の通りでございます。

これ以降のスライドで過去の実績と合わせた資料でご説明いたします。

ソニー生命の業績(1)

新契約高(個人保険+個人年金保険)

新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



6

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、前年度比1.9%増加し、3兆8,737億円となり、新契約件数も、1.8%増加し53万件となりました。

(右側のグラフ)

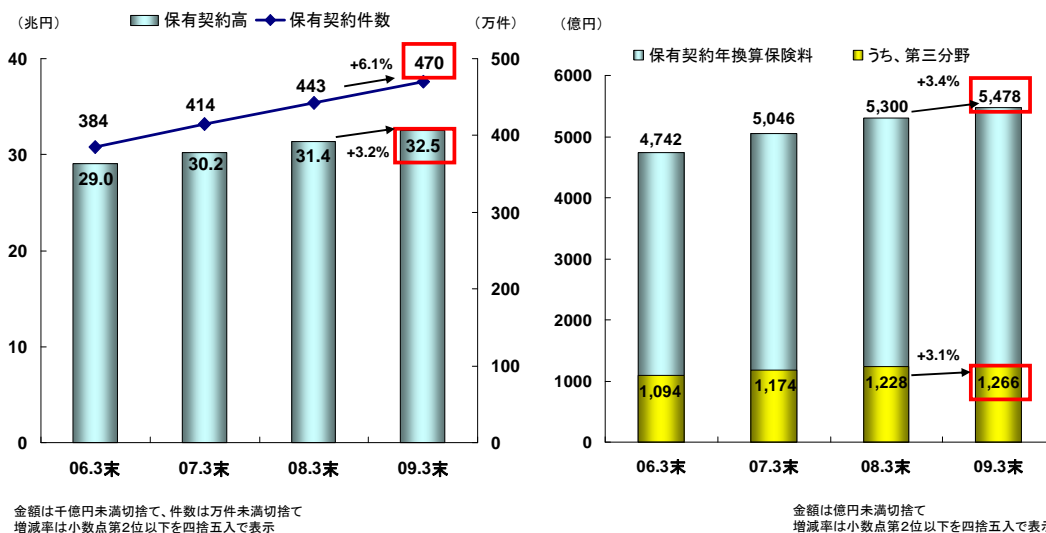
新契約年換算保険料は、前年度比2.8%減少し616億円となりましたが、このうち第三分野は0.6%増加の134億円となりました。

なお、新契約高が伸展しているにもかかわらず、新契約年換算保険料が減少しているのは、変額保険の新契約年換算保険料が減少したことが主な要因になります。

ソニー生命の業績(2)

保有契約高(個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



7

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年度末比3.2%増加し、32兆5,176億円となりました。

保有契約件数は前年度末比6.1%増加し、470万件となりました。

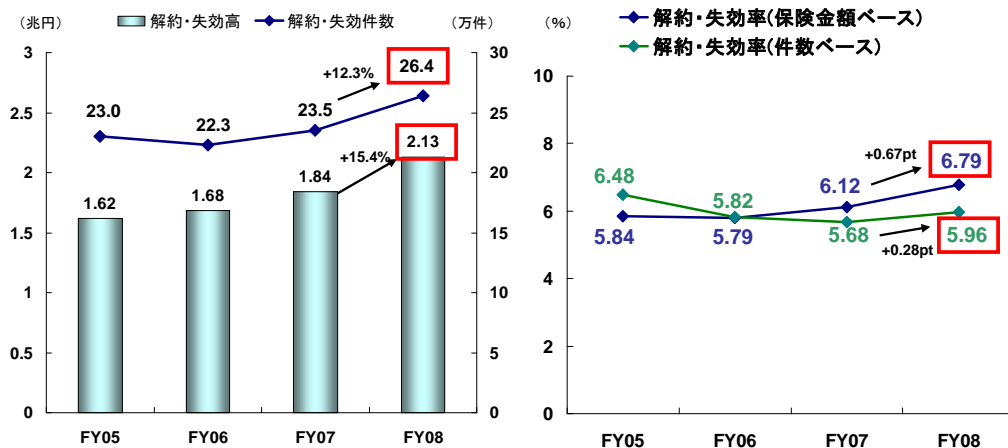
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、前年度末比3.4%増加し、5,478億円となり、このうち第三分野は3.1%増加し1,266億円となりました。

ソニー生命の業績(3)

解約・失効高* / 解約・失効件数*
(個人保険+個人年金保険)

解約・失効率*(個人保険+個人年金保険)



金額は百億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て。増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示。
*解約・失効高、解約・失効件数、解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せず算出した数値です。

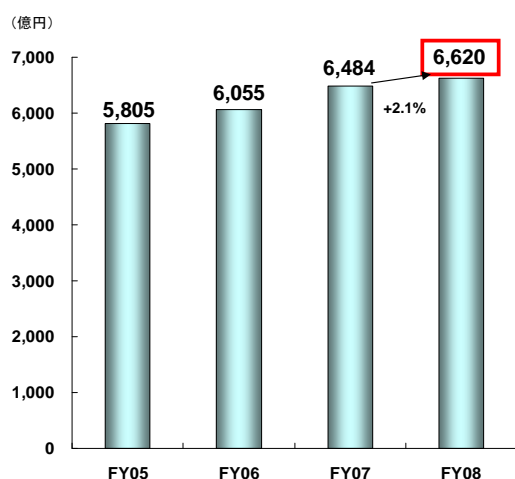
左側のグラフでは、解約・失効高および解約・失効件数の推移を、
右側のグラフでは、解約・失効率の推移を示しております。

解約・失効率は、保険金額ベースでは前年度比0.67ポイント上昇し6.79%となりました。

解約・失効率の上昇の主な要因は、法人契約の定期保険と、個人契約の変額保険の解約の増加などによるものです。その背景には、景気や運用環境の悪化があるものと考えております。

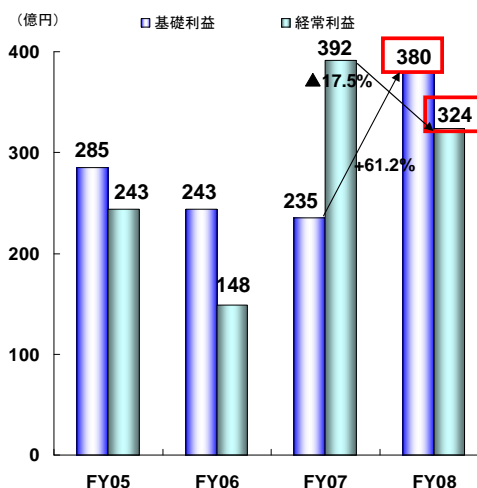
ソニー生命の業績(4)

保険料等収入



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

基礎利益と経常利益



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

(左側のグラフ)

保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年度比、2.1%増加し6,620億円となりました。

(右側のグラフ)

基礎利益は前年度対比で増益、経常利益は減益となっております。

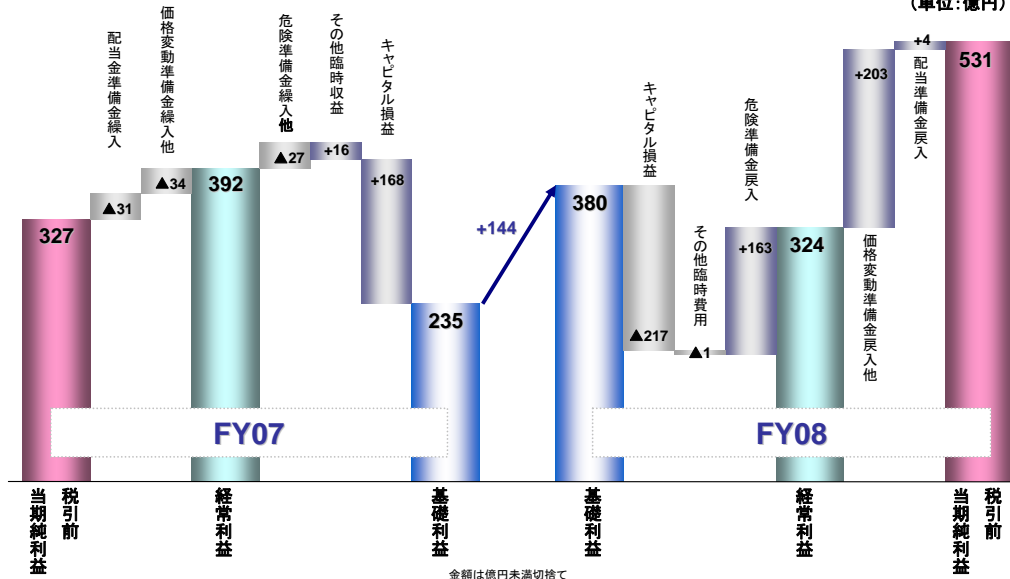
基礎利益は、保有契約高の増加に伴う保険料収入の増加と、超長期債の購入による利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年度比61.2%増加の380億円となりました。

一方、経常利益は前年度比17.5%減少し324億円となりました。

ソニー生命の業績(5)

利益の変動要因分析 (FY07 vs FY08)

(単位:億円)

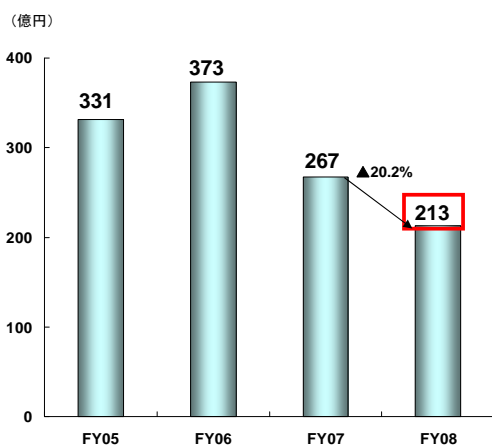


基礎利益、経常利益、および税引前当期純利益の前年度対比の変動要因分析は、グラフのとおりです。

2008年度は基礎利益が増加した一方で、キャピタル損益の悪化が大きく、危険準備金の一部取り崩しを行ったものの、経常利益は前年度比で68億円の減益となりました。

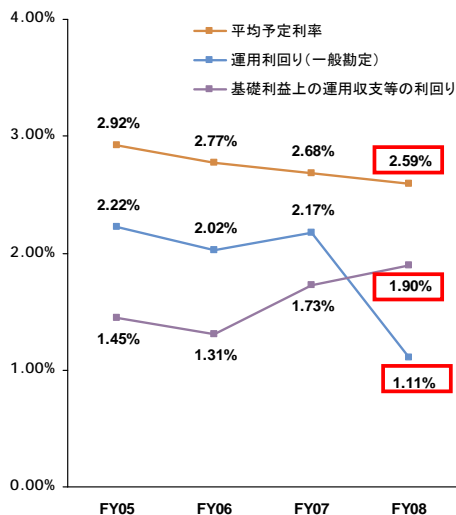
ソニー生命の業績(6)

逆ざや額



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

平均予定利率に対する基礎利益上の運用収支等の利回りと運用利回り(一般勘定)



11

(左側のグラフ)

逆ざや額につきましては、利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年度比20.2%減少し213億円となりました。

(右側のグラフ)

基礎利益上の運用収支等の利回りが1.90%、

一般勘定の運用利回りが1.11%

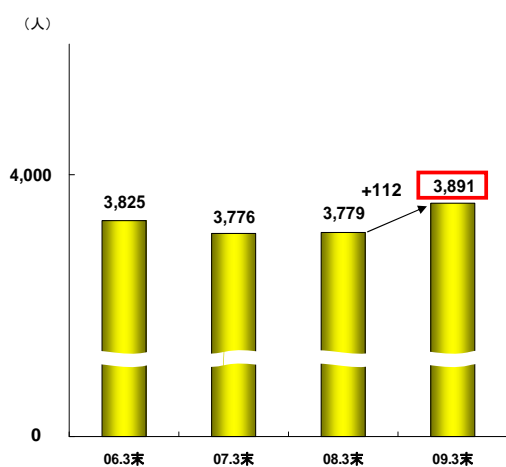
平均予定利率は、2.59%

となっております。

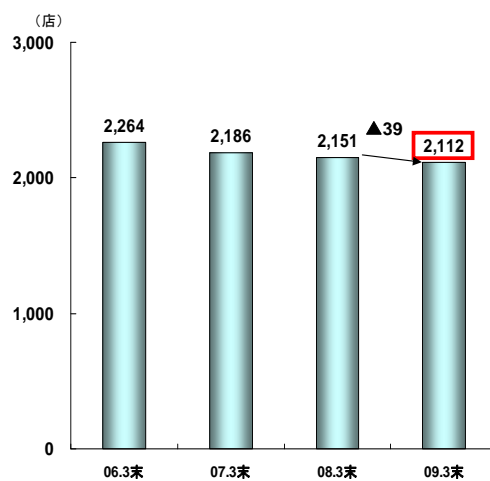
なお、一般勘定の運用利回りが1.11%と大幅に低下したのは保有有価証券の減損によるものです。

ソニー生命の業績(7)

ライフプランナー在籍数



代理店数



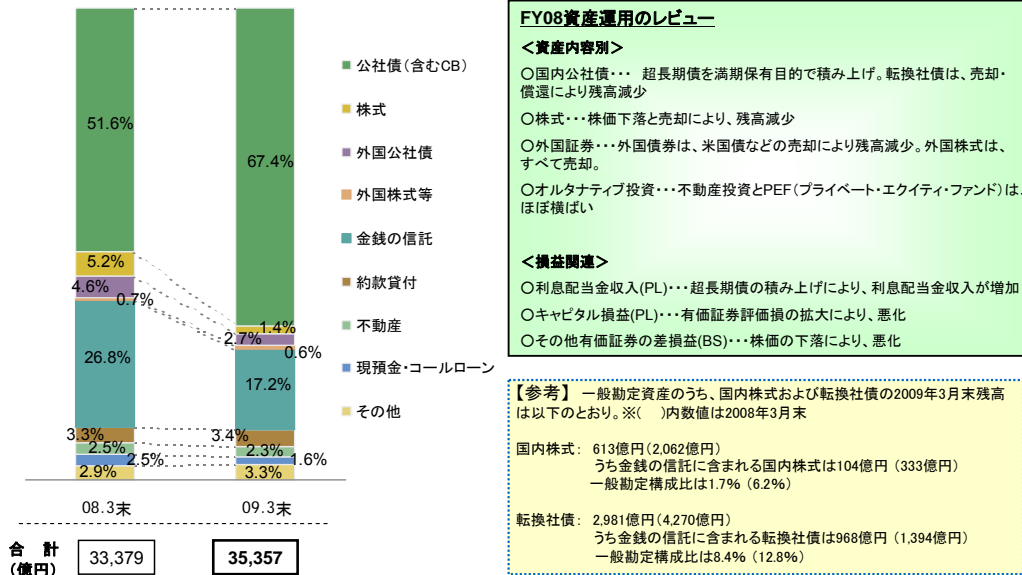
(左側のグラフ)

2009年3月末時点でのライフプランナー在籍数は、前年度末に比べると112人増加し、3,891人となりました。

(右側のグラフ)

代理店数は、前年度末に比べて39店減少し、2,112店となっています。

一般勘定資産の内訳



前年度末と対比した当年度末の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。

株式、および公社債に含まれる転換社債につきましては、金銭の信託に含まれる株式および転換社債と合わせた実質ベースで見ますと、一般勘定資産総額に占める割合は、株式が2008年3月末では6.2%でしたが、2009年3月末には1.7%に減少し、転換社債も12.8%から8.4%に減少しております。

2008年度は、超長期債を満期保有目的で積み上げ、株式、転換社債などエクイティ性資産を圧縮しました。2009年4月以降も「超長期債への投資を増やしていく方針」に変更はございません。

なお、ソニー生命のポートフォリオの変化につきましては、補足資料の28ページ目以降をご参照ください。

ソニー生命の業績(9)



時価のあるその他有価証券の差損益

(単位:億円)

	08.3末	08.6末	08.9末	08.12末	09.3末
公社債	834	286	190	588	269
うちCB	92	84	▲195	▲226	▲212
株式	508	632	241	33	14
外国証券	▲95	▲58	▲121	▲61	▲36
その他証券	30	38	19	▲0	▲5
合計	1,278	898	330	560	242

※金銭の信託に含まれているものも含む。

※2009年3月末の公社債269億円には、満期保有目的債券の含み益268億円は含まず。外国証券▲36億円には、満期保有目的債券の含み損1億円は含まず。

※2009年3月末時点でソニー生命が保有するCBの加重平均価格は84.9円、平均残存期間は3.6年(ブット条項を行使した場合の平均残存期間は2.5年)。

金額は億円未満切捨て

14

「時価のあるその他有価証券の差損益」の状況を、前年度末より四半期ごとに開示しておりますが、当年度末時点での含み益は、主に国内株式相場の下落によって**242億円**となり、前年度末からは**1,036億円**の減少となりました。

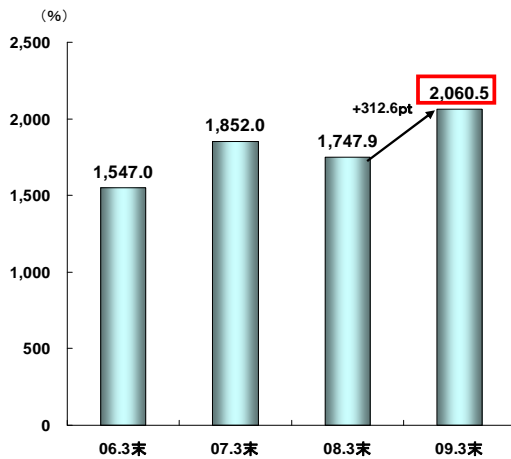
株式を中心とするエクイティ性資産については、マーケットの状況を注視しつつ、デリバティブ取引によるヘッジも実施していましたが、**2009年3月末**で、ヘッジを解消しました。なお、**2008年度第3四半期**より開始した株式関連デリバティブ取引により生じた利益として、**89億円**を損益計算書に計上しました。

また、その他有価証券にかかる減損額は、年度累計で**449億円**です。

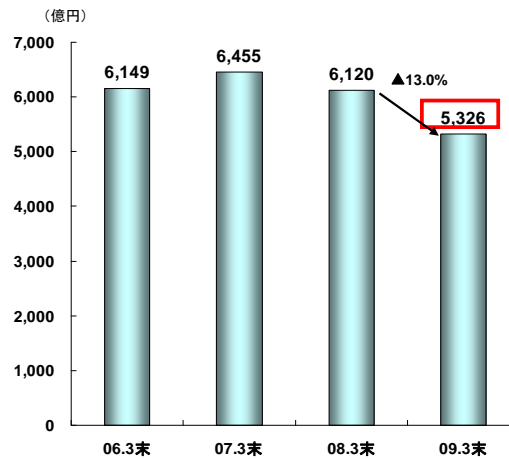
※(注) 一般勘定の差損益は、**2009年3月末**の時価から**2009年3月末**の簿価を控除して算出しております。

ソニー生命の業績(10)

ソルベンシー・マージン比率



実質純資産



金額は億円未満切捨て
増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

(左側のグラフ)

生命保険会社の健全性を示す指標のひとつであります、ソルベンシー・マージン比率は、2008年3月末に比べて、312.6ポイント上昇し、2,060.5%となりました。

株価下落の影響等でソルベンシー・マージンの中の、その他有価証券の評価差額は減少しました。しかし、エクイティ性資産を圧縮したことや、満期保有目的での超長期債の購入を推進してきたことなどから、資産運用リスク相当額は大きく減少しました。

その結果、ソルベンシー・マージン比率は上昇しました。

(右側のグラフ)

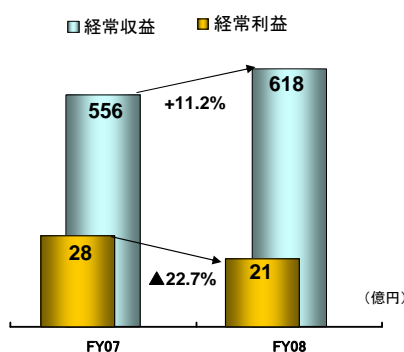
また、右側のグラフは実質純資産の推移を示しております。

ソルベンシー・マージン比率、実質純資産の詳細につきましては、補足資料にも掲載しておりますので後ほどご覧ください。

ソニー生命は引き続き財務基盤の健全性の維持に努めてまいります。

なお、ソニー生命の2009年3月末MCEVにつきましては、6月1日の発表を予定しております。

ソニー損保 業績ハイライト



【ソニー損保】

- ◆前年度比 増収減益
- ◆自動車保険の新規契約獲得が好調に推移、経常収益は前年度比11.2%増加の618億円
- ◆支払保険金の増加等により経常利益は22.7%減少の21億円
- ◆特別損失*の計上により、15億円の純損失

*無形固定資産(ソフトウェア仮勘定)の処分損

(億円)	FY07	FY08	前年度比	
経常収益	556	618	+62	+11.2%
保険引受収益	550	611	+61	+11.1%
資産運用収益	5	7	+1	+26.5%
経常費用	528	597	+68	+13.0%
保険引受費用	389	442	+52	+13.4%
資産運用費用	0	1	+1	+2,958.1%
営業費及び一般管理費	138	153	+14	+10.6%
経常利益	28	21	▲6	▲22.7%
当期純利益	21	▲15	▲37	—

(億円)	08.3末	09.3末	前年度末比	
責任準備金残高	427	507	+80	+18.9%
純資産額	153	136	▲17	▲11.1%
その他有価証券評価差額金	▲0	▲1	▲1	—
総資産額	786	866	+80	+10.2%

金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

16

次に、ソニー損保の業績ハイライトについてご説明します。

当年度の経常収益は、自動車保険を中心に契約獲得が好調に推移したことから、前年度比**11.2%**増加の**618億円**となりました。

一方、経常利益は、自然災害による支払保険金の増加等により、**22.7%**減少の**21億円**となりました。

当期純損益は、特別損失としてソフトウェア仮勘定の処分損を計上したことにより、前年度の**21億円**の純利益に対し当年度は**15億円**の純損失となりました。

なお、特別損失に含まれる処分損は、**2006年度**からシステムとオペレーションの効率化を目的に進めてきた新システムの開発を当年度に中断し、開発方針を見直すこととしたため、ソフトウェア仮勘定のうち今後使用が確実といえないものについて、**37億円**の除却をしたものです。

新システムの開発は中断していますが事業戦略面で必要なシステム開発は現行システムに対して行なっておりますので、オペレーション上の支障はありません。

ソニー損保 主要業績指標



(単位: 億円)

	FY07	FY08	前年度比
元受正味保険料	546	608	+11.4%
正味収入保険料	550	611	+11.1%
正味支払保険金	262	299	+14.2%
保険引受利益	22	16	▲26.9%
正味損害率	53.5%	55.0%	+1.5pt
正味事業費率	26.7%	26.7%	±0.0pt
コンバインド・レシオ	80.3%	81.7%	+1.4pt

	08.3末	09.3末	前年度末比	
			増減数	増減率
保有契約件数	102万件	115万件	+12万件	+12.6%
ソルベンシー・マージン比率	1,073.9%	993.0%	▲80.9pt	

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料
 ※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値(万件未満切捨て)
 両方で正味収入保険料の99%を占める

金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

17

ソニー損保の主要業績指標はスライドに記載のとおりです。

次のスライドには、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しております。

ソニー損保 種目別保険引受の状況



元受正味保険料

	FY07	FY08	増減率
火災	273	379	+38.6%
海上	—	—	—
傷害	6,315	6,653	+5.4%
自動車	48,053	53,835	+12.0%
自賠責	—	—	—
合計	54,642	60,868	+11.4%

正味収入保険料

(単位:百万円)

	FY07	FY08	増減率
火災	16	18	+15.7%
海上	52	41	▲21.6%
傷害	6,501	6,932	+6.6%
自動車	47,845	53,619	+12.1%
自賠責	585	493	▲15.7%
合計	55,001	61,106	+11.1%

正味支払保険金

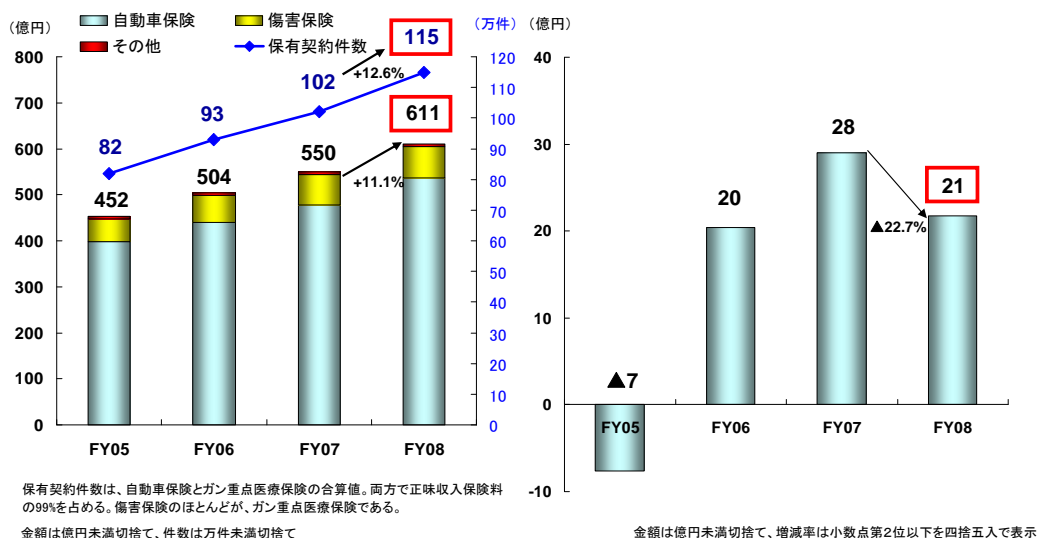
	FY07	FY08	増減率
火災	0	0	▲34.6%
海上	25	12	▲49.7%
傷害	1,205	1,368	+13.5%
自動車	24,546	28,088	+14.4%
自賠責	447	484	+8.1%
合計	26,225	29,952	+14.2%

金額は百万円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数

経常利益(損失)



(左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で前年度末比**12.6%**増加し、**115**万件となりました。

正味収入保険料は前年度比**11.1%**増加し、**611**億円となりました。

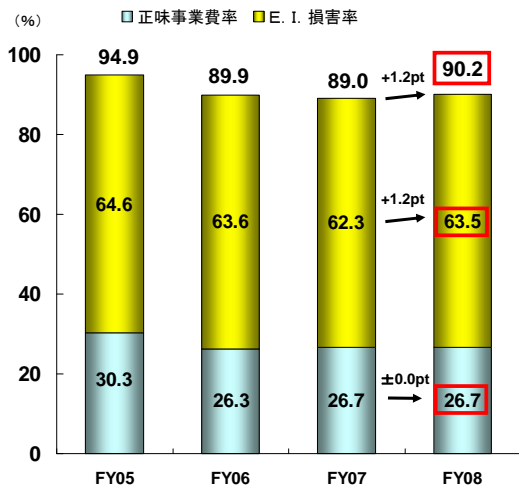
なお、自動車保険の販売開始から**9年3ヶ月**を経た**2008年12月末**に自動車保険の保有契約件数は**100**万件に達しました。

(右側のグラフ)

経常利益は先のご説明のとおり、前年度比**22.7%**減少し、**21**億円となりました。

ソニー損保の業績(2)

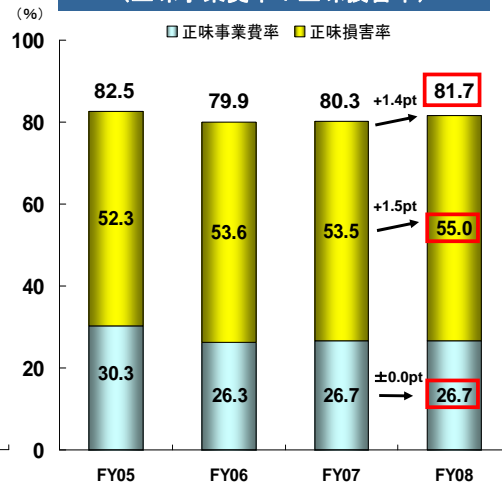
正味事業費率+E.I.損害率



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料
※除く地震保険、自賠責保険

<参考>

コンバインド・レシオの推移 (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、正味損害率を、発生ベースでみたアード・インカード損害率についてご説明します。当年度のアード・インカード損害率は前年度比1.2ポイント上昇しましたが、このうち当年度の自然災害の影響の0.7ポイントを除くと当年度の損害率は62.8%となり、更に前年度における傷害保険の責任準備金算出方法変更の影響0.7ポイントを除くと、損害率は約0.1ポイント減少したものと試算されます。

従って、自然災害の影響を除いた損害率は、過去3年間の推移から見ても上昇していないということがご理解いただけると思います。

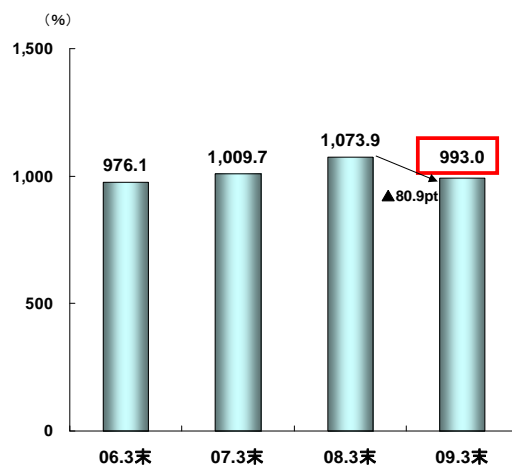
また、正味事業費率は、前年度と同水準の26.7%となりました。

(右側のグラフ)

正味損害率は、自然災害の影響などにより1.5ポイント上昇の55.0%となりました。この結果、正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは1.4ポイント上昇の81.7%となりました。

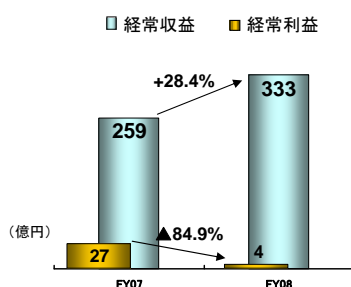
ソニー損保の業績(3)

ソルベンシー・マージン比率



当年度末のソルベンシー・マージン比率は前年度末に比べ、
80.9ポイント低下の993.0%となりましたが、引き続き健全な水準を維持しております。

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



【ソニー銀行】

- ◆前年度比 増収減益
- ◆経常収益の増加要因
 - ・業容拡大にともなう運用資産残高の増加により、資金運用収益が増加
- ◆経常利益の減少要因
 - ・期末の有価証券時価の下落により、有価証券の減損処理を実施
- ◆当期純損失の計上要因
 - ・税効果会計による法人税等調整額の増加
- ◆預かり資産残高は前年度末比1,562億円増加して1兆4,036億円

(億円)	FY07	FY08	前年度比	
経常収益	259	333	+73	+28.4%
業務粗利益	109	108	▲0	▲0.8%
資金運用収支	51	66	+15	+30.2%
役員取引等収支	3	3	▲0	▲21.3%
その他業務収支	54	39	▲15	▲28.3%
営業経費	81	103	+21	+26.6%
経常利益	27	4	▲23	▲84.9%
当期純利益	44	▲7	▲52	—

(億円)	08.3末	09.3末	前年度末比	
有価証券残高	4,887	8,231	+3,343	+68.4%
貸出金残高	3,470	4,770	+1,300	+37.5%
預金残高	11,443	13,263	+1,819	+15.9%
純資産額	357	462	+105	+29.5%
その他有価証券評価差額金	▲90	▲96	▲6	-
総資産額	12,110	14,119	+2,009	+16.6%

金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

次に、ソニー銀行単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー銀行の経常収益は、業容の拡大にともなう運用資産残高の増加により、資金運用収益が増加し、前年度比**28.4%**増加の**333**億円となりました。

経常利益については、市場環境の悪化により有価証券について**24**億円の減損処理を行ったことにより、その他業務収支が減少し、前年度比**84.9%**減少の**4**億円となりました。

当期純損益は、経常利益の減少、および、法人税等調整額が増加したことから、**7**億円の純損失となりました。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY07	FY08	前年度比	
業務粗利益	109	108	▲0	▲0.8%
資金運用収支	51	66	+15	+30.2%
役務取引等収支	3	3	▲0	▲21.3%
その他業務収支	54	39	▲15	▲28.3%
業務純益	28	5	▲22	▲81.3%

(単位:億円)	08.3末	09.3末	前年度末比	
			増減額・数	増減率
預かり資産残高	12,473	14,036	+1,562	+12.5%
預金	11,443	13,263	+1,819	+15.9%
円預金	8,926	10,442	+1,515	+17.0%
外貨預金	2,517	2,821	+303	+12.1%
投資信託	1,029	772	▲256	▲24.9%
貸出金残高	3,470	4,770	+1,300	+37.5%
住宅ローン	3,388	4,683	+1,294	+38.2%
その他	81	87	+5	+7.3%
口座数	61.0万件	72.3万件	+11.3万件	+18.6%
自己資本比率(国内基準)*	9.15%	13.37%	+ 4.22pt	

* 平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。
 なお、平成21年3月期より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用しております。

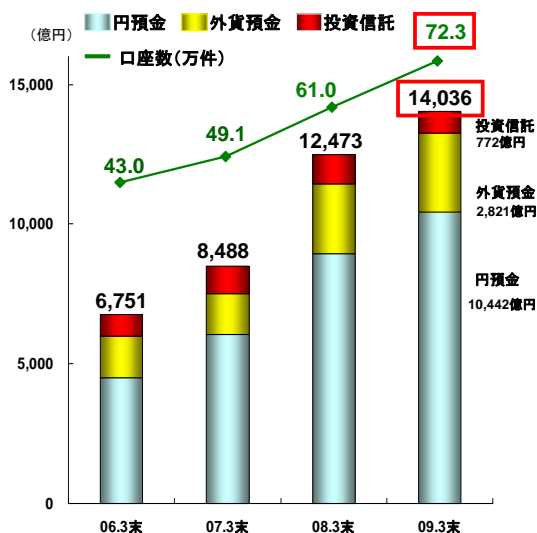
金額は億円未満切捨て、増減率は小数点第2位以下を四捨五入で表示

23

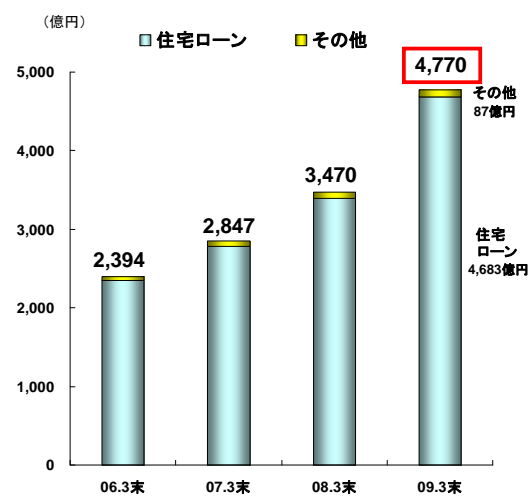
ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドのとおりでございます。

ソニー銀行の業績(1)

預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



貸出金残高



金額は億円未満切捨て

業容の動向についてご説明します。

(左側のグラフ)

当年度末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、主に円預金残高が増加したことにより、前年度末と比べて**12.5%**増加し**1兆4,036億円**となりました。このうち、預金残高は**15.9%**増加し、**1兆3,263億円**、投資信託の残高は**24.9%**減少し、**772億円**となりました。

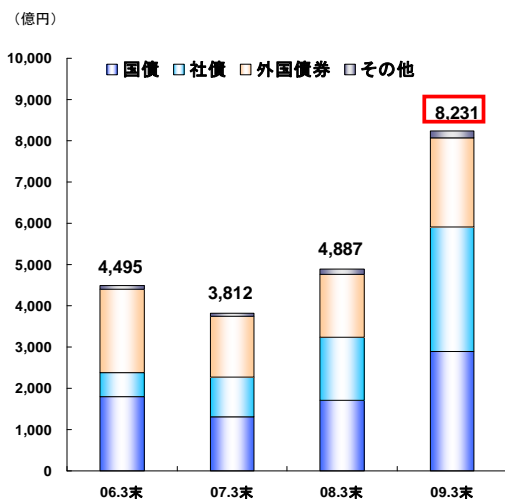
口座数は、前年度末比**11万3千件**増加し、**72万3千件**となりました。

(右側のグラフ)

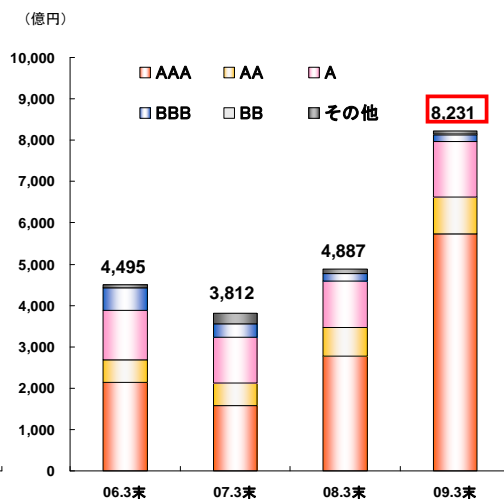
貸出金においては、前年度末と比べて**37.5%**増加し**4,770億円**となりました。貸出金の大部分を占める住宅ローンは、グラフのとおり順調に増加し、**38.2%**増加の**4,683億円**となりました。

ソニー銀行の業績(2)

有価証券残高の推移



格付別の有価証券残高の推移



金額は億円未満切捨て

次に有価証券の残高推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

有価証券運用は、国債を中心に金利リスクをとった運用と、投資適格の事業債を中心に信用リスクをとった運用を行っております。2009年3月末の残高は、前年度末比68.4%増加し8,231億円となりました。

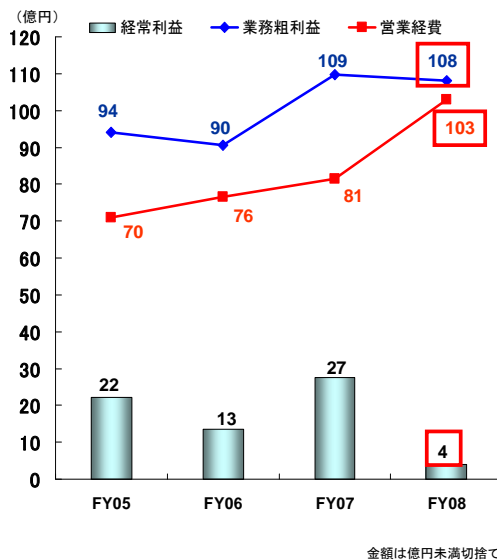
(右側のグラフ)

有価証券の格付別の分布を表しております。

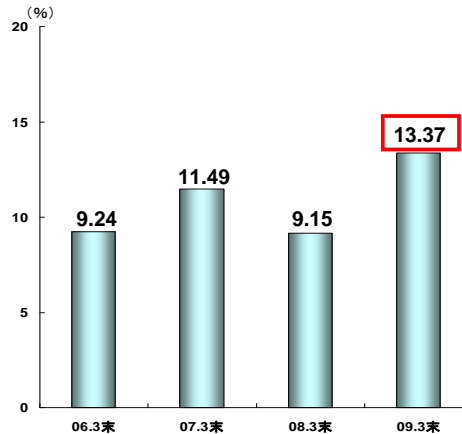
AAA(トリプルA)を中心とした高格付けの債券で運用しております。

ソニー銀行の業績(3)

業務粗利益・営業経費・経常利益



自己資本比率(国内基準)の推移



※ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする増資を、2008年度で120億円、実施いたしました。

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。なお、平成21年3月期より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用しております。

次に収益性および自己資本比率についてご説明します。

(左側のグラフ)

業務粗利益は、業容拡大にともなう運用資産残高の増加により、有価証券利息配当金、および貸出金利息が増加し、資金運用収支が増加しました。しかしながら、期末における有価証券時価の下落にともない24億円の減損処理を行ったことなどにより、その他業務収支が減少したことなどから、業務粗利益は前年度比0.9億円減少の108億円となりました。

(右側のグラフ)

今年度末の自己資本比率は、前年度末と比べ4.22ポイント上昇し13.37%となり、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

上昇の要因は主に、ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする増資を、2008年度で120億円行ったこと、および金融庁の告示による基準の変更を適用したことにより自己資本の算出においてその他有価証券評価差額金が除外されたことによります。

FY09連結業績予想



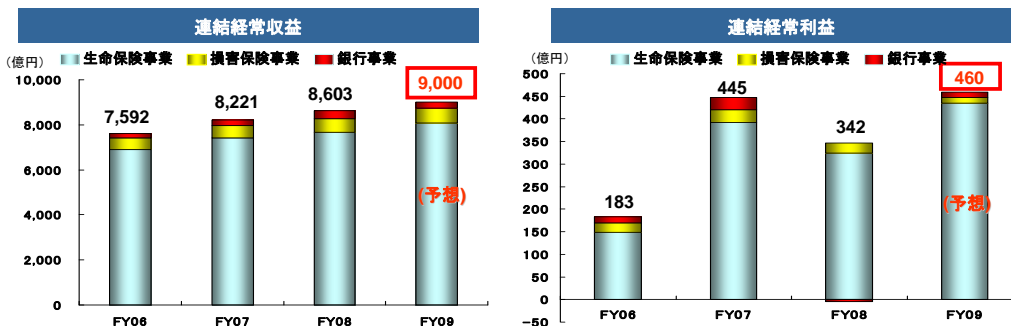
(単位: 億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY08	FY09 (中間期予想)	FY09 (通期予想)	増減率 FY08 vs FY09(通期)
連結経常収益	8,603	4,370	9,000	+ 4.6%
うち生命保険事業	7,662	3,921	8,087	+ 5.5%
うち損害保険事業	618	329	653	+ 5.5%
うち銀行事業	333	127	261	▲ 21.8%
連結経常利益	342	200	460	+ 34.3%
うち生命保険事業	325	198	435	+ 33.7%
うち損害保険事業	21	4	12	▲ 44.9%
うち銀行事業	▲5	3	13	-
連結当期純利益	307	100	240	▲ 21.9%

■生命保険事業
保有契約高が堅調に推移し、保険料収入増加により増収を見込む。資産運用損益の改善により経常増益を見込む。

■損害保険事業
業容は主力の自動車保険を中心に引き続き順調に拡大すると予想し増収を見込む。一方、損害率が上昇する見込みであること、および事業費率もシステム関連費用等の増加により上昇する前提であることから、経常減益を見込む。

■銀行事業
業容は預金、貸出金ともに残高が拡大するものの、経常収益は世界的な利下げに伴う資金運用収益の減少により、前年度比減収を見込む。一方で、資金調達費用も減少することにより、業務粗利益は安定的に増加すると見ており、結果として経常増益を見込む。



27

ソニーフィナンシャルホールディングスの2010年3月期の連結業績予想について、ご説明いたします。

各事業とも、業容を順調に拡大していくと見ており連結経常収益は増収を見込みます。経常利益も安定的に推移すると予想し増益を見込んでいます。

連結当期純利益については、2008年度の生命保険事業における価格変動準備金の取り崩しによる一時的な増益要因がないことから、2009年度は減益を見込みます。

以上で、ご説明を終了します。

ありがとうございました。

補足資料

補足資料

ソニー生命の純資産(指標別)の明細



純資産(BS上)・実質純資産・ソルベンシー・マージン

(単位: 億円)

	①純資産(BS上)		②実質純資産		③ソルベンシー・マージン		備考
	08.3末	09.3末	08.3末	09.3末	08.3末	09.3末	
株主資本合計	1,014	1,381	1,014	1,381	944	1,311	③社外流出予定額控除後
その他有価証券評価差額金	827	40	827	40	-	-	
その他有価証券の含み損益	-	-	-	-	1,167	176	③税引前の90%
土地再評価差額金	▲14	▲14	▲14	▲14	-	-	
価格変動準備金	-	-	240	36	240	36	
危険準備金	-	-	618	454	618	454	
一般貸倒引当金	-	-	-	-	0	0	
土地の含み損益	-	-	68	65	51	48	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期テメル式責任準備金 相当超過額	-	-	2,873	3,022	2,873	3,022	
配当準備金未割当部分	-	-	23	3	23	3	
将来利益	-	-	-	-	7	-	
税効果相当額	-	-	-	-	113	257	
満期保有債券の含み損益	-	-	-	267	-	-	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債	-	-	469	69	-	-	
合計	1,826	1,407	6,120	5,326	6,040	5,313	

金額は億円未満切捨て

(ソニー生命の純資産(指標別)の明細)

ソニー生命の減損の資産内容別明細



有価証券の減損の資産内容別明細

(単位:億円)

	FY07 (年度累計)	FY08				FY08 (年度累計)
		FY08.1Q (四半期)	FY08.2Q (四半期)	FY08.3Q (四半期)	FY08.4Q (四半期)	
公社債	1	3	2	50	201	257
(うちCB)	1	3	2	50	201	257
株式	97	4	27	137	6	175
外国証券	—	—	3	5	2	11
(うち公社債)	—	—	3	5	2	11
(うち株式等)	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	3	3
合計	98	7	33	193	214	449

注)ソニー生命では、四半期における有価証券の評価方法は、切放し法を採用しております。
原則として、時価が取得原価に比べて30%以上下落した銘柄については減損処理を行うこととしております。

金額は億円未満切捨て

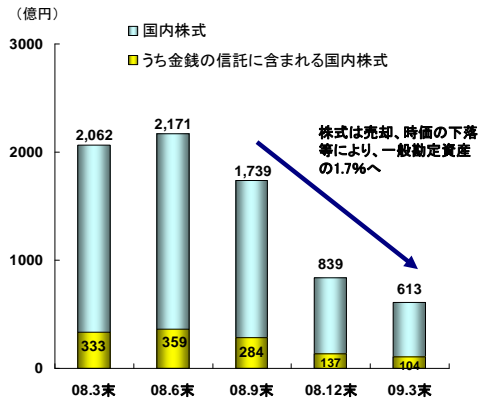
(ソニー生命の減損の資産内容別明細)

ソニー生命のポートフォリオの変化(1)



■FY08において、エクイティ性資産(株式および転換社債(CB))を圧縮

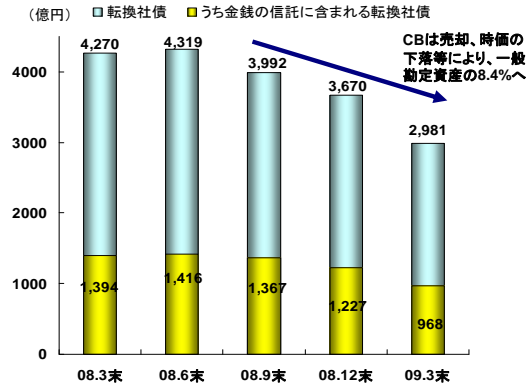
一般勘定資産における株式の残高



	FY08	1Q	2Q	3Q	4Q
減損		4	27	137	6
うち金銭の信託分		0	8	33	1

金額は億円未満切捨て。減損額は、各四半期(3ヶ月)単位。

一般勘定資産における転換社債(CB)の残高



	FY08	1Q	2Q	3Q	4Q
減損		3	2	50	201
うち金銭の信託分		1	-	16	63

金額は億円未満切捨て。減損額は、各四半期(3ヶ月)単位。

(ソニー生命のポートフォリオ変化(1))

ソニー生命のポートフォリオの変化(2)



有価証券の時価情報

■過去1年間で、その他有価証券の中のエクイティ性資産(株式およびCB)は圧縮。満期保有目的の超長期債を積み上げ

■債券のDurationは8.7年から13.6年へ長期化

■売買目的有価証券の残高も減少

●売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの(金銭の信託を含む)

(単位:億円)

区 分	08.3末			08.6末			08.9末			08.12末			09.3末		
	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益
満期保有目的の債券	-	-	-	137	140	2	2,651	2,680	29	7,620	8,316	695	13,990	14,257	267
その他有価証券	27,249	28,528	1,278	28,060	28,959	898	26,051	26,381	330	20,427	20,987	560	16,755	16,997	242
公社債	23,799	24,634	834	24,625	24,912	286	22,685	22,875	190	18,671	19,259	588	15,469	15,739	269
(うち転換社債)	3,809	3,902	92	3,873	3,958	84	3,822	3,627	▲195	3,596	3,369	▲226	2,977	2,765	▲212
株式	1,529	2,038	508	1,499	2,131	632	1,454	1,696	241	766	800	33	569	583	14
外国証券	1,849	1,754	▲95	1,863	1,805	▲58	1,837	1,715	▲121	915	853	▲61	642	605	▲36
その他の証券	71	101	30	71	109	38	74	93	19	74	74	▲0	74	68	▲5
合 計	27,249	28,528	1,278	28,197	29,099	901	28,703	29,062	359	28,048	29,304	1,255	30,745	31,254	509

●売買目的有価証券の評価損益

(単位:億円)

08.3末		08.6末		08.9末		08.12末		09.3末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
438	▲30	484	▲0	448	▲24	337	▲31	228	▲43

金額は億円未満切捨て

(ソニー生命のポートフォリオ変化(2))

ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移

- エクイティ性資産の圧縮および満期保有目的での超長期債の購入などにより、資産運用リスク相当額は減少
- 株価下落の影響で、ソルベンシー・マージン総額のうち、その他有価証券の評価益は減少
- 2008年度は準備金の取り崩しを実施

(単位:億円)

項目	08.03末	08.06末	08.09末	08.12末	09.03末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	6,040	5,976	5,564	5,673	5,313
資本金等	944	1,109	1,152	1,265	1,311
価格変動準備金	240	245	246	160	36
危険準備金	618	625	632	450	454
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0
その他有価証券の評価差額*90%(マイナスの場合100%)	1,167	830	304	470	176
土地の含み損益*85%(マイナスの場合100%)	51	51	51	52	48
全期テイル式責任準備金相当額超過額	2,873	2,919	2,963	2,994	3,022
配当準備金未割当部分	23	32	29	32	3
将来利益	7	7	7	7	-
税効果相当額	113	153	175	239	257
負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-
控除項目	-	-	-	-	-
リスクの合計 $\sqrt{(R_1 + R_2)^2 + (R_3 + R_4 + R_5)^2} + R_6$ (B)	691	709	668	568	515
保険リスク相当額 R_1	179	181	182	185	185
第三分野保険の保険リスク相当額 R_2	69	70	70	71	70
予定利率リスク相当額 R_3	110	111	112	112	112
資産運用リスク相当額 R_4	453	468	420	308	246
経営管理リスク相当額 R_5	17	17	17	14	13
最低保証リスク相当額 R_6	61	63	67	70	72
ソルベンシー・マージン比率 $(A)/(1/2 \times (B)) \times 100$	1,747.9%	1,685.6%	1,665.4%	1,995.0%	2,060.5%

金額は億円未満切捨て

33

(ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の詳細)

ソニー生命のFY09資産運用の基本方針



- MCEVおよび経済価値に基づくソルベンシー・マージン基準への移行に対応して、ALMの観点から、引き続き超長期債投資を継続。
- エクイティ性資産、オルタナティブ資産への投資は慎重に実施。

国内公社債	<ul style="list-style-type: none">●超長期債を中心に購入継続●転換社債は、償還・売却により残高減少
株式	<ul style="list-style-type: none">●2008年度末残高からほぼ横ばい(2008年度中に残高圧縮がほぼ完了)●ポートフォリオの質の向上を図るために銘柄の入れ替えを中心に行う
外国証券	<ul style="list-style-type: none">●外国債券は、横ばい●外国株式は、購入予定なし
オルタナティブ投資	<ul style="list-style-type: none">●不動産投資は、横ばい●PEF(プライベート・エクイティ・ファンド)は、横ばい

34

(ソニー生命のFY09資産運用の基本方針)

その他トピックス

ソニー銀行におけるソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■住宅ローン新規融資実行金額の約30%

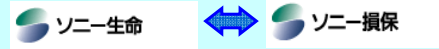
※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



ソニー損保におけるソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■新規自動車保険契約件数の約6%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月



<2008年度以降の主な取り組み>

2008年 4月23日	SFH、ソニー銀行の株主割当増資(60億円)を引受け
2008年 5月12日	ソニー銀行、「外国為替証拠金取引」の取り扱いを開始
2008年 5月23日	SFH、ソニー生命保険の株主割当増資を引受け
2008年 8月 1日	ソニー銀行、ソニー銀行とセブン銀行による銀行代理業務提携を開始
2008年10月 1日	SFH、株式会社格付投資情報センターより、発行体格付け「AA-」の格付けを取得を発表 ソニー生命、北京駐在員事務所開設
2008年10月 2日	ソニー生命、新商品「無解約返戻金型平準定期保険・無解約返戻金型平準定期保険特約」発売
2008年10月14日	ソニー銀行、株式会社日本格付研究所より、長期優先債務格付け「AA-」の格付けを取得
2008年10月29日	ソニー銀行、円と米ドルで支払いができる「2通貨決済機能付クレジットカード」取り扱い開始
2008年11月12日	SFH、ソニー銀行の株主割当増資(60億円)を引受け
2008年11月28日	ソニー生命、2008年3月末の市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV)を開示
2008年12月末	ソニー損保、自動車保険の保有契約件数、100万件到達
2009年 1月19日	ソニー損保、ペット保険の販売を開始
2009年 4月 2日	ソニー生命、『がん入院保険』『先進医療特約』『入院時手術給付特約』の発売開始
2009年 4月10日	SFH、社債発行にかかる発行登録に関するお知らせ

その他トピックス



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当
TEL:03-6230-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、
報道関係の方で、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先